

## 【星月夜】

新月の星空の美しさをいう季語である。ニューヨーク近代美術館所蔵のゴッホの絵にも「星月夜」がある。

星の光には、太陽のように自ら強い光を発しているのも、地球や月のように太陽の光を反射させて光っているものもある。誕生日にローソクを吹き消したとき、光はすぐ消えたと思うが、本当は光は消えない。宇宙の始まりの頃の光を、科学者は今もスバル望遠鏡で観測する。例えば、すばる星の光は四〇〇年ほど前に出た光である。光は消えずに一定の速さで宇宙を走る。俳人も写真家も、よく今この瞬間の光を切り取ると言うが、それは実は過去に発せられた光なのである。

森の中に立つて、周囲がたくさんの木の幹で覆われると、森の向こうが見通せなくなるのと同じように、宇宙の星が一樣にたくさん分布しているとすると、実際には暗い夜空の全体が銀色に輝くはずだという逆説がある。これはオルバースのパラドックスと呼ばれる。

新月のときの星月夜の星は輝きを増して見えるが、夜空がなぜ暗いのかというのは、大きな謎のままである。膨張する宇宙、限りある星の命、星の分布の密度や宇宙の大きさ、さまざまの観点から観測と研究が続く。宇宙をどう捉えるかという議論は、あらゆる分野の人びとを巻き込んで、果てしなく続くのであろう。